

©国民民主党は公約どおりトリガー条項を凍結解除して燃料税を引き下げてください。立憲民主党は公約どおり企業・団体献金を禁止してください。福田栃木県知事は公約どおり・・・公約知りません！



建交労

とちぎ

発行所 全日本建設交運一般労働組合
栃木県本部 〒327-0315
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1
Tel 0283-62-7312 fax 0283-62-7318
www.kenkourou.or.jp/
E-mail:dqj06744@nifty.com

組合員増勢で定期大会開催 新委員長選出し世代交代進める

10月27日(日)、佐野市内で県本部第25回大会とダンブ支部第43回定期大会を50人が参加し開催しました。
ダンブ支部大会では、15年委員長を務めた工藤経見委員長が退任、後任には43歳の梅田賢一さんが選出されました。

昨年の大会で、高齢化が進むダンブ業界のなかで、組合をどう維持発展させるかが問題提起されました。
この一年様々な議論をすすめ、その一つとして執行部の世代交代に取り組むことが検討されてきました。

その結果、今大会で長年組合を率いてきた工藤委員長、石川副委員長、川田副委員長の三名が三役を退任、40代から50代の組合員が中心になり執行部を構成することになりました。

◎工藤委員長「私の前任は専従者でした。現場でダンブに乗りながら、一年様々な議論をすすめ、その一つとして執行部の世代交代に取り組むことが検討されてきました。その結果、今大会で長年組合を率いてきた工藤委員長、石川副委員長、川田副委員長の三名が三役を退任、40代から50代の組合員が中心になり執行部を構成することになりました。」

◎梅田新委員長「もう10年以上前ですが、埼玉県警察本部でおこなわれた交通事故の聴聞会で組合に助けていただいたのが私の原点です。まだわからないことが多いのですが、諸先輩から学びながら自分なりに頑張りたいと思います。ご支援よろしく願います。」



退任のあいさつをする工藤さん



就任のあいさつをする梅田さん



長年にわたり支部をけん引していただいた川田副委員長、石川副委員長、工藤委員長(左から)。執行委員として引き続きご協力いただきます。



映像で大型車特有の交通事故パターンを学習しました。

困難な状況でも組合員は拡大

川田副委員長は議案提案のなかで「9月末の組合員数は554人

(前年同月553人)。依然として高齢等による脱退は少なくありません。しかしその一方で、この一年で63人の新加入者を迎え入れることができ、20年

高騰が進むなかで「健康で文化的な最低限度の生活」を実現するには、いったいいくらかかるのか。それを科学的に試算・調査し、必要経費と生活状態を示すのが「最低生計費試算調査」です。アンケート用紙は組合にあります。ご協力お願いします。

以上続く減少傾向に歯止めをかけることができました」と報告しました。

業界全体で単価改善に
運動方針では、単価改善の取り組みが強調されました。国交省が初めて距離別ダンブ標準単価を示しました。組合の単価調査でもありにも開きがあることが明らかになりました。砕石業界はダンブ不足によって単価の改善を迫られています。諸物価の高騰も含めこの情勢を攻勢的に利用する方針が確認されました。

また新たな方針として、組合のLINE公式アカウントを作成し、組合との連絡、情報発信(機関紙も)・共有等様々な活用を検討することになりました。今後スマホを利用している組合員には登録を呼びかけます。

◎十一月から様々な職種で働くフリーランスの人も労災保険に加入できるようになりました。当面フリーランス協会との連携対応を検討しています。お知り合いがいる方はご相談ください。

労災防止

監督署に申告し職場監査実現 安心して働ける職場環境めざして



「こういう機会はありがたい」（会社幹部）。本音と思いたい。

じん肺は数十年にわたりゆっくり進行し呼吸困難などに苦しみます。いったん発症すると治ることはなく、それだけに現役で働いているときの現場対策が重要です。

国は労働者の健康被害を防止するために「粉じん障害防止規則」を定めています。監査は、この規定に職場の対策が適合しているかを検証してもらうこと

山尾雅弘分会長
「フコックスでは長年私たち作業職の賃金は低く抑えられてきました。以前は残業で少しはカバーできましたが、いまは残業規制もあり手取りが増えません。倉庫内はクーラー

住友大阪セメントが製造するセメントなどを扱う運送会社フコックスで働く組合員らは、倉庫内で粉じんが舞うなか働いています。将来じん肺等の職業病になる不安を抱えています。しかし会社は粉じん対策に消極的です。組合員らが栃木労働基準監督署に申告し、10月28日、職場監査が実施されました。



「危ない交差点」1位 国道50号佐野新都市

「日本損害保険協会」が都道府県別の人身事故が多い交差点を発表しました。県内では、宇都宮市西川田本町交差点と佐野新都市交差点が人身事故6件でワースト1位になってしまいました。佐野新都市交差点は組合員も多く走行しています。他県からアウトレットに来た不慣れた乗用車や歩行者に注意が必要です。



セメントの袋詰めは「特定粉じん作業」とされており特別な対策が必要です。

もなく年々夏場の熱中症対策は深刻になっていきます。そんななかで防塵マスクにゴーグルで作業してらんです。粉じん手当てか待遇面でも改善してもらわないと今の時代従業員は定着しません」

組合では監督署からの監査結果報告を踏まえてあらためて要求を討議し団体交渉を予定しています。

地域の課題を仲間と要請

保険証廃止反対⇒自治体 法令遵守指導を⇒銀行

十一月十九日、下都賀地域労連が主催する「秋の総行動」に参加しました。栃木市・小山市への要請では、現在の健康保険証を12月以降も継続利用できるように訴えました。また非正規職員の待遇改善等も求めました。

栃木労働基準監督署へは複雑化する雇用状況に対応できるように正規職員の増員等を要請しました。足利銀行、栃木銀行に対しては、法令、人権を軽視する企業への指導、争議の早期解決を働きかけるよう求めました。



栃木労働基準監督署への要請



建設業界では「使えない労災保険」に加入している人が少なくありません。加入対象者ご紹介ください。

組合の建設労災保険事故対応ポイント

建設業で一人親方として働く菅井正雄さんは10月上旬、夜間工

現場で転倒し右足首を骨折しました。菅井さんは長年組合で労災

「労災加入が就労条件だから加入証明がほしくて入ってるけど使うつもりはなかった。やっぱり元請さんに迷惑かけるからね。自分の健康保険使ってた」

建設業界ではいまだに労災事故隠しが横行しています。一人親方は最も弱い立場で働いているため「自粛」してしまうのです。組合では菅井さんに「業者の証明は必要なく組合が直接手続きを行います」と説明し労災保険を請求しました。あきらめる前に「ご相談を。」